



Maneki-Neko

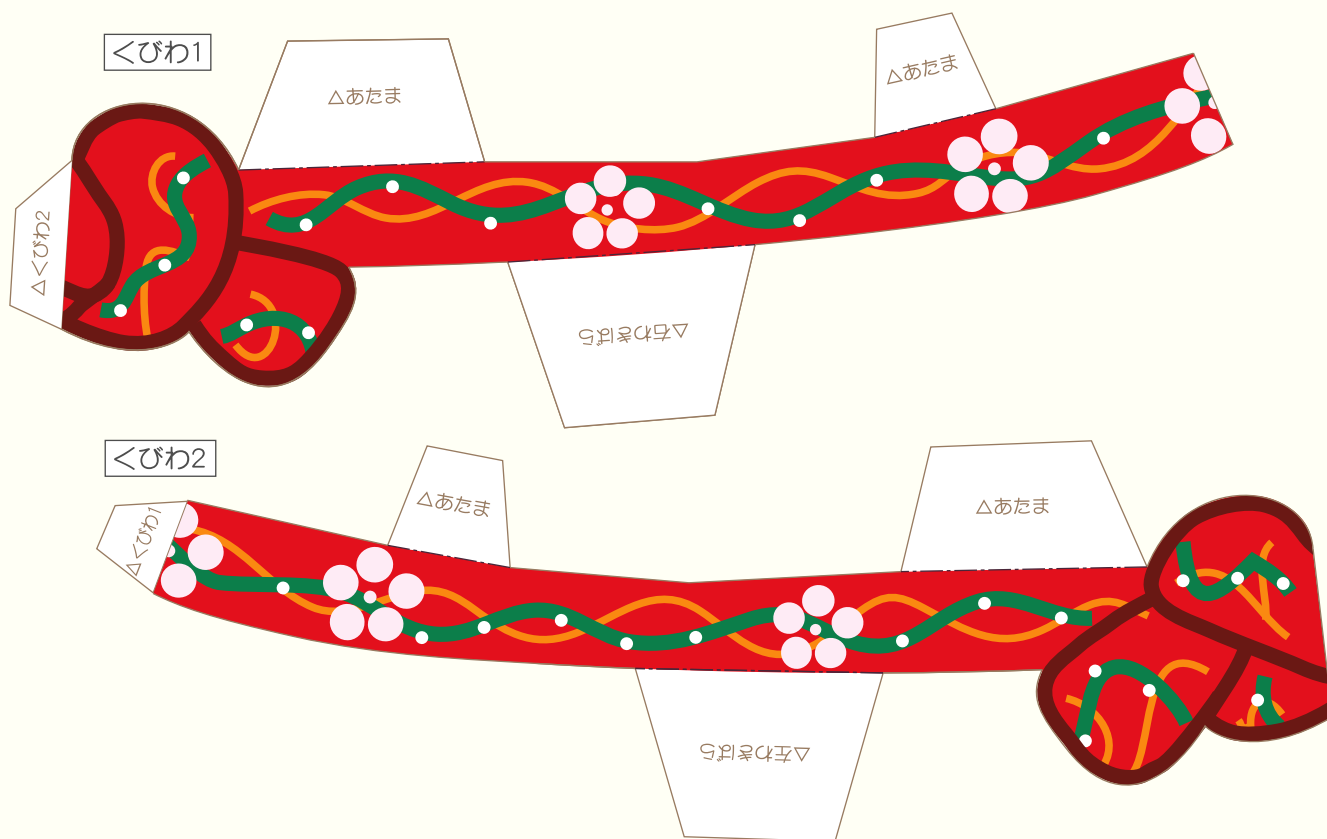
まねきねこ（ひとまねき）

福を招くとされ、日本で広く親しまれている招き猫ですが、その起源については諸説あり、どれが正しいかは現在でも謎とされています。

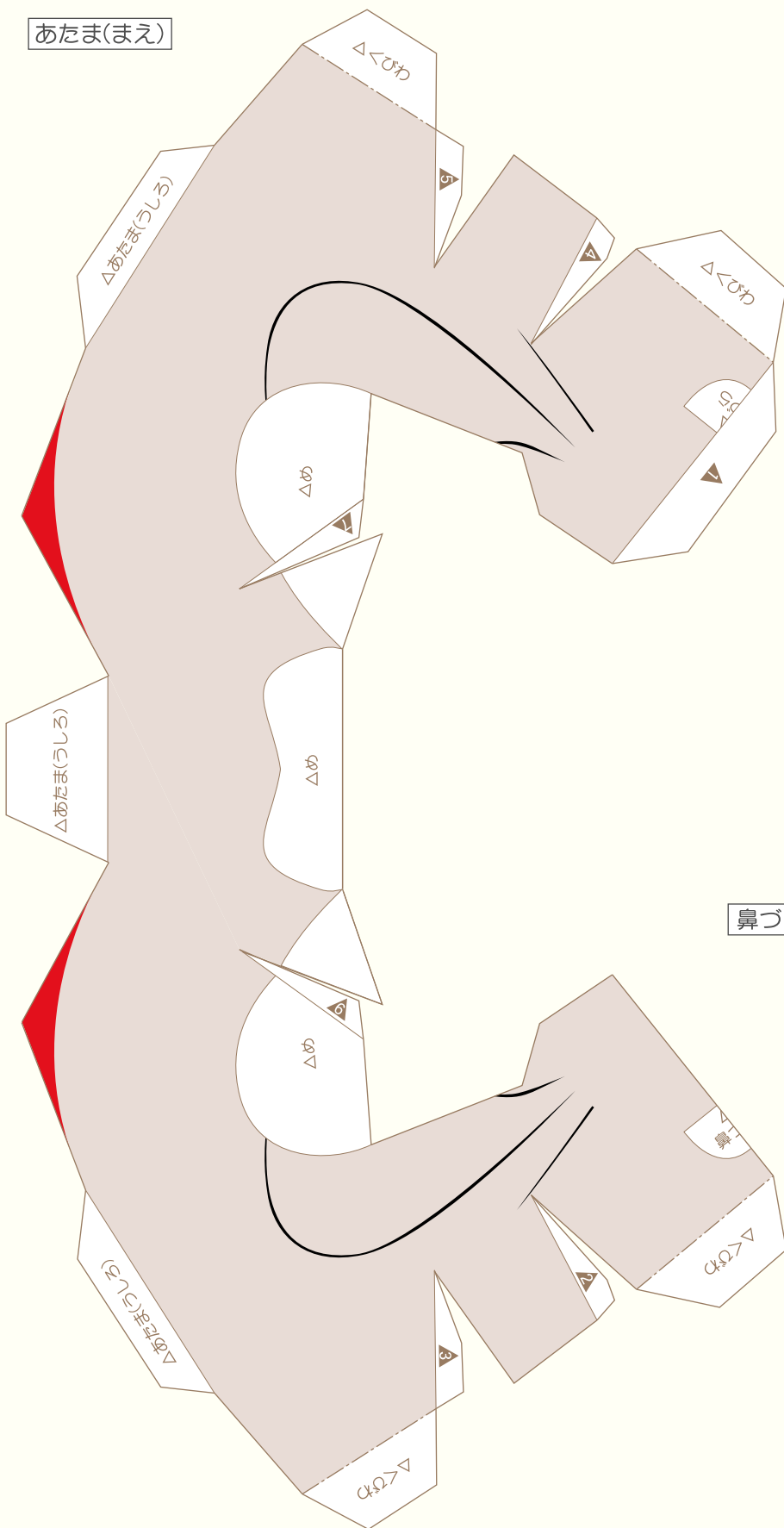
発祥年代は、江戸時代（1603年～1867年）の終り頃で、明治時代（1868年～1911年）に飾り物として発展したようです。

招き猫のポーズには色々ありますが、一般的に左手を上げているものは「人（客）を招く」と言い伝えられており、「商売繁盛」の願いをこめ、商店などで多く飾られています。

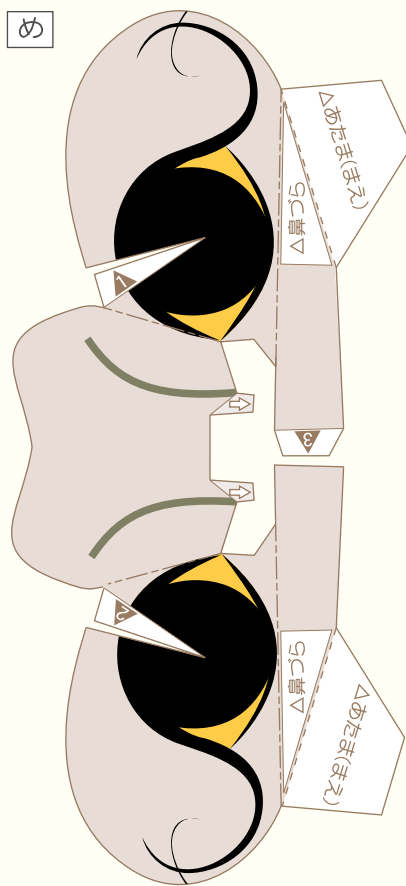
また、年代の古いまねき猫には左手を上げているものが多く、中でも「首輪に金の鈴」もしくは「首輪に小さな小判」を下げているものが多く見られ、その小さな小判には「福」や「福寿」の文字が書かれています。多くの人を招くことが多くの福を招くことに繋がるという思いが、小判の文字に反映されたのでしょう。



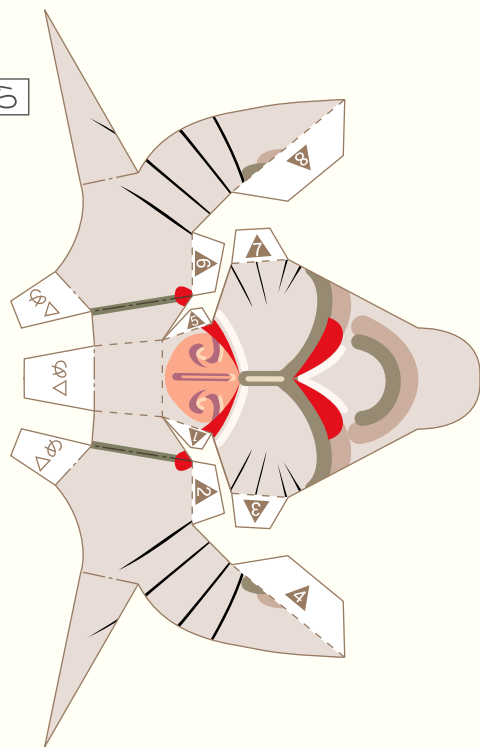
あたま(まえ)

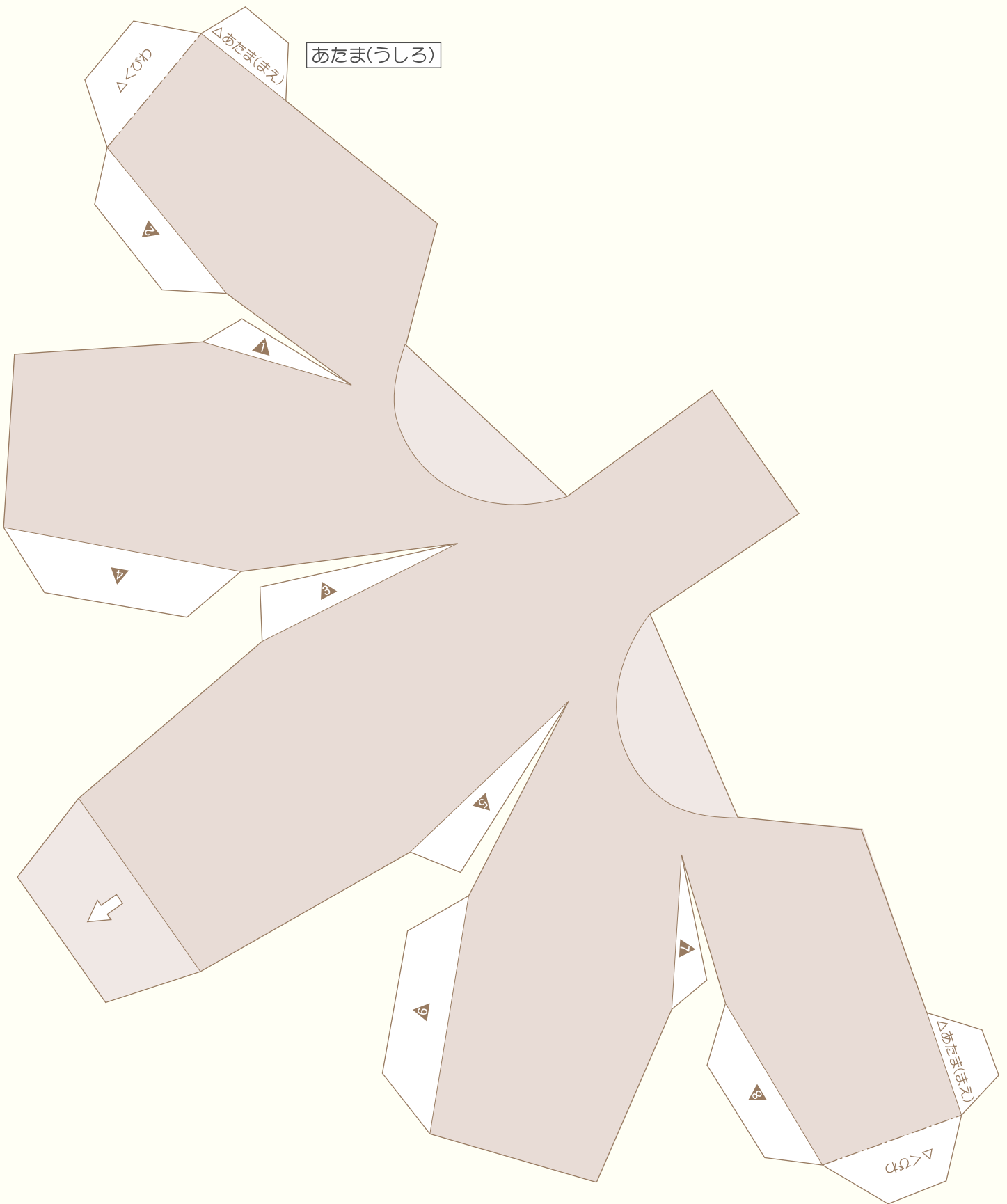


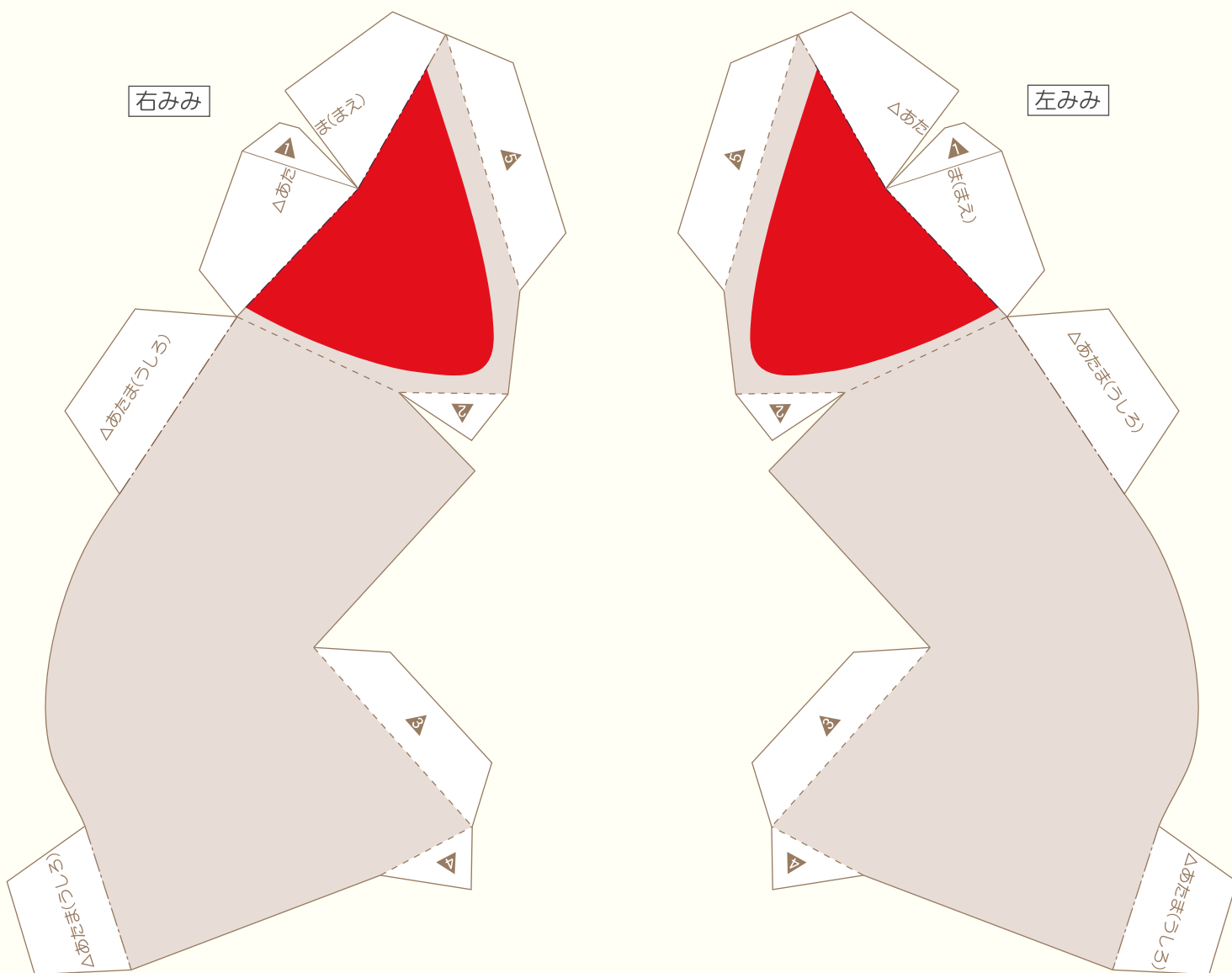
め



鼻づら







こばん(張り替え用)

開運こばん



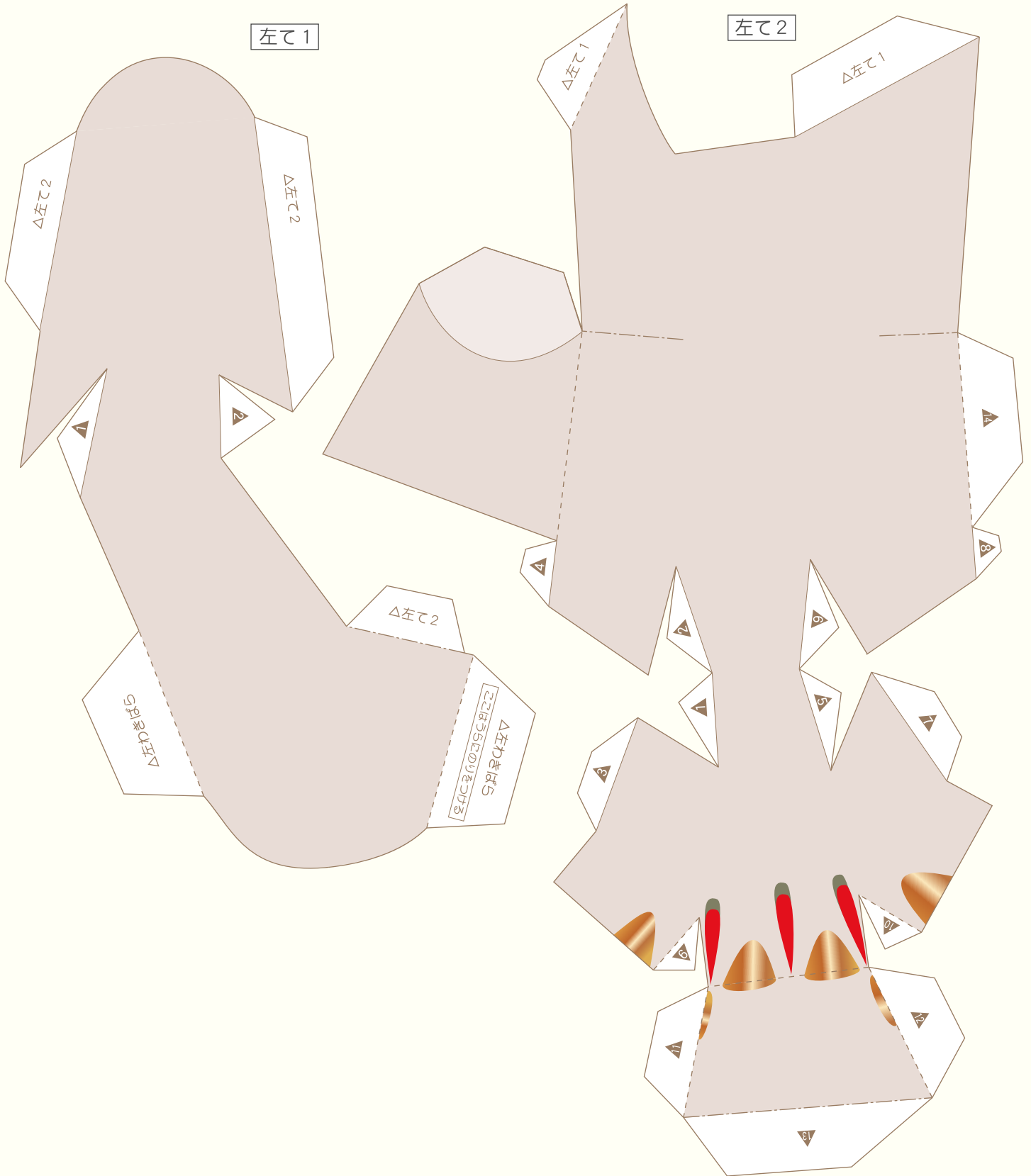
招福こばん



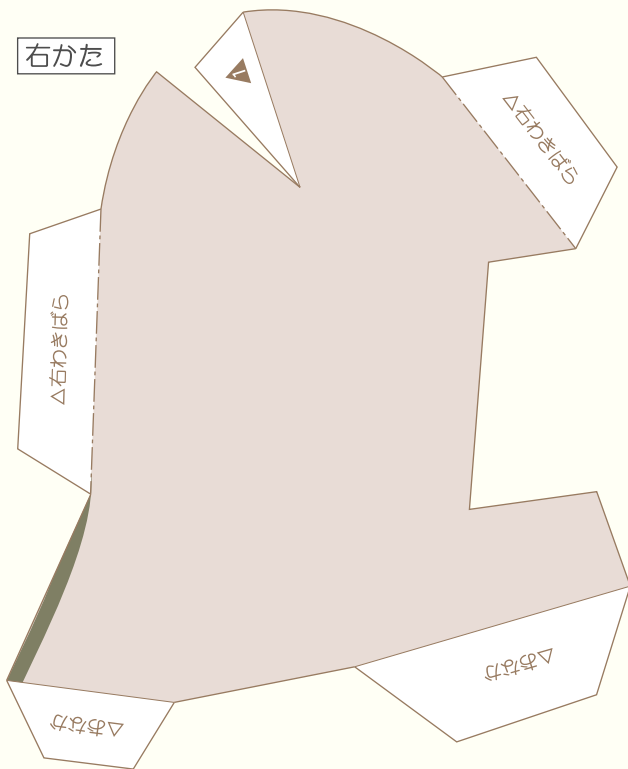
無地こばん



願い事がある人はつつに書いて貼ろう!



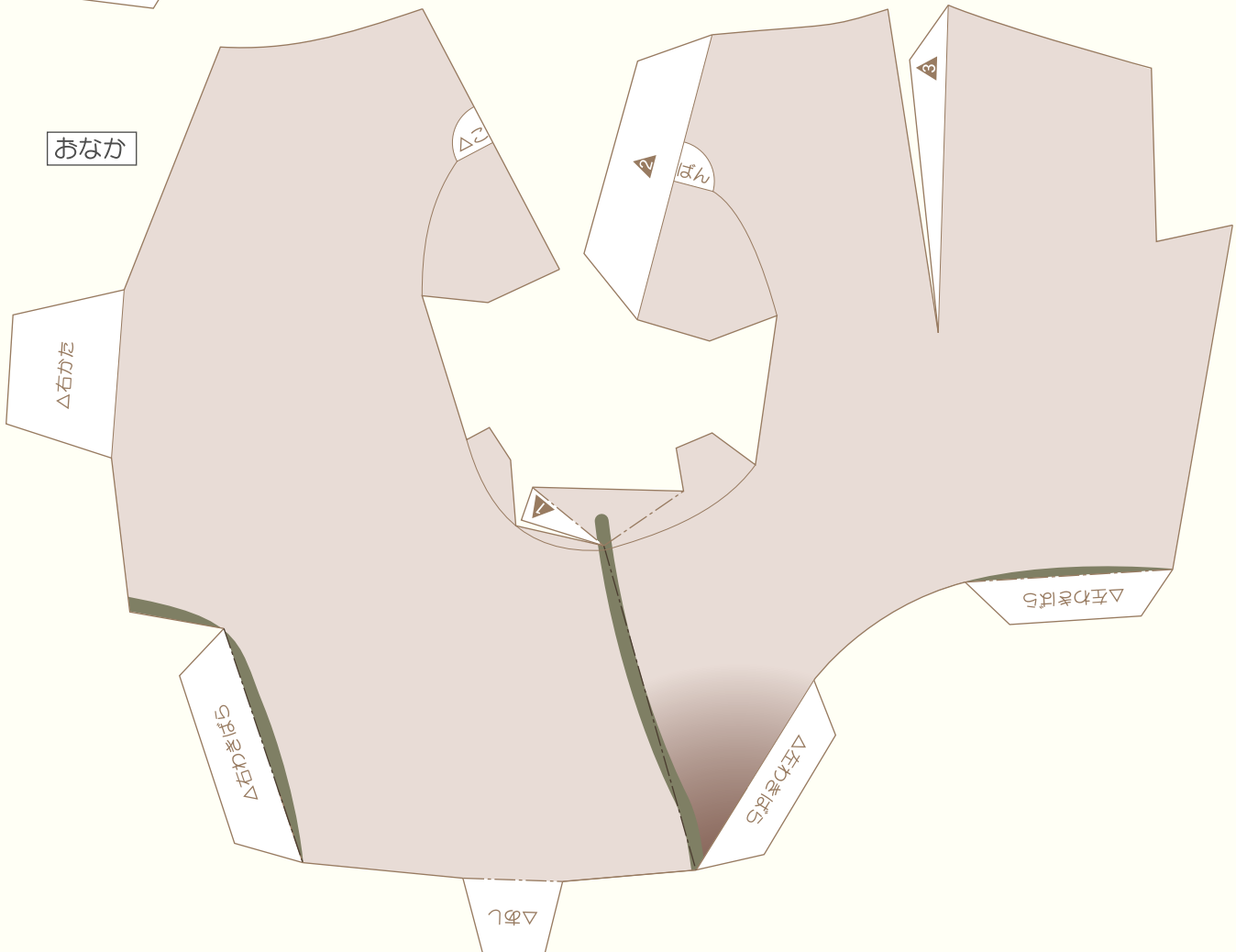
右かた

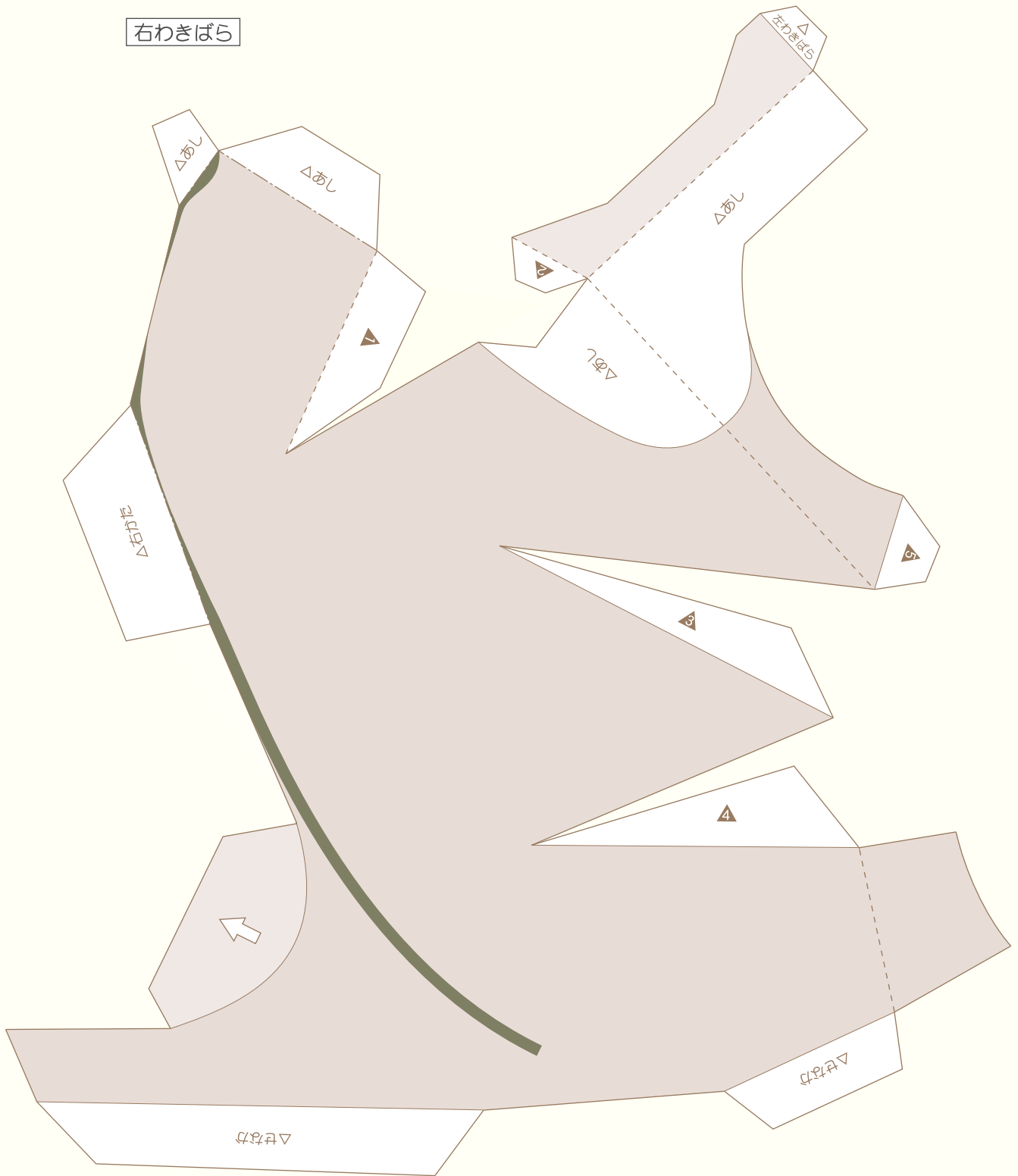


こばん



おなか





左わきばら

